

## 世界初、ごみ拾いアプリで きれいな地域づくりへ

福井県

福井県は、スマートフォンを使ったごみ拾いアプリ「PIRIKA」と連携し、きれいな地域づくりを目指す。同アプリは個人や企業・団体がごみ拾いを楽しく共有できるシステムで清掃活動の広がりが期待される。同アプリと連携し、清掃活動を行う自治体は福井県が世界で初めて。

### ごみ拾いを 楽しくシェアできるシステム

同アプリは、ごみ拾いに特化したソーシャルネットワーキングサービス。ある人がごみを拾い、そのごみをスマートフォンのカメラで撮影、画像を投稿するサイトがネット上にあり、同様にサービスを利用している人たち全員で投稿画像を共有、互いのごみ拾いを励ましあう。

開発した会社、㈱ピリカの小宮不二夫社長は「ごみを拾った瞬間に、他のユーザーから感謝のメッセージが何通も送ら

れてくる。世界のどこかで、自分と同じ時間にごみを拾っている人たちがいて、彼らと繋がる感覚になる」と力を込める。現在、利用者は日本だけでなく、海外にも広がり、これまでに72カ国で約695万個のごみが拾われている（7月16日時点）。

同アプリの趣旨に賛同し、協賛企業が増えるなか、その特徴が着目され、福井県の普及啓発活動「クリーンアップふくい大作戦」などと連携、利用されること

となった。福井県環境政策課の黒部課長は「団体としてのごみ拾いという点、義務感が拭えない。また、個人レベルのごみ拾いでは気恥ずかしさなどもあると思うが、このアプリは、ごみ拾いを楽しくシェアできる、いままでになかったシステム」と高く評価。「これまでは清掃活動に消極的だった個人や企業、団体が参加するようになれば輪が広がる」と期待を寄せる一方、「この取り組みをどのように、福井のごみ拾いとして位置づけていくかが課題」と指摘する。

2018年に国体開催が決まった福井県。それを一つの契機として、ごみのない、きれいな地域づくりへ、魅力ある故郷づくりへ、果敢な挑戦が始まった。  
W (本誌・加藤)



福井県から「PIRIKA」に投稿された多くの画像の一部。ごみ拾いに楽しく参加したようすが伝わってくる